



311子ども甲状腺がん 損害賠償請求訴訟

第1回口頭弁論期日
意見陳述～損害～

2022年5月26日

原告ら訴訟代理人弁護士 熊澤 美帆



本件の特徴

- **6～16歳の若さで甲状腺がんに罹った**



本件事故直後の状況

- 進学、進級の準備のため、制服の採寸などに行っていた。
 - 震災の影響で電車がとまっており、ガソリンもなく、かろうじてバスで向かう状況。
 - 震災によって親せき宅が崩壊し、その片付けや引っ越し作業を外で手伝っていた。
 - 物資不足で、一日に複数のスーパーを歩いてまわる必要があった。
 - 事故当時、水道が止まっており、井戸水を組みに行ったり、コインランドリーまで行くなどもしていた。
- 訴状より



原告らが受けた治療

- 甲状腺片葉切除術（全員）
- 甲状腺全摘出（一部）
- RAI治療／RI治療（一部）
- ホルモン補充療法（全摘した原告ら）

等



穿刺吸引細胞診（訴状125頁等）

- 麻酔をすることなく、甲状腺のある喉元に注射針を刺し、細胞を吸引して良性か悪性かを判断する方法。
- 通常の注射針よりも多くて長い針を使う。



穿刺細胞診の専門医



RI (アイソトソープ) 治療

- ヨウ素が甲状腺の細胞に集積する性質を利用して、高濃度の放射性ヨウ素を含んだカプセルを内用して細胞を内部被曝させ、肺などに転移している甲状腺がん細胞を破壊する治療。
- 治療を受ける前の2～3週間、ヨード制限食を摂取し、体内のヨウ素を下げる必要がある。
- 甲状腺がんの遠隔転移時に服用する放射性ヨードの用量100m～150ミリキュリー（3.7～5.5ギガベクレル=37～55億ベクレル）
- 30mCi以上の放射性ヨードを投与された患者は最低2日間個室に隔離され、見舞い客などと接触できない。妊婦や幼児との接触も厳禁





本件の特徴

- 甲状腺がんの治療費
- 治療の身体的苦痛
- 生涯の体調不良
- 再発、転移の不安
- 甲状腺がん以外の身体的・遺伝的影響
- せっかく入学した大学を中退
- 希望をもって就職した会社を退職
- 恋愛，結婚，出産等、具体的に思い浮かべることができない
- 親や家族の苦しみ
- 社会からのバッシング



本件の特徴

- 甲状腺がんの治療費
- 治療の身体的苦痛
- 生涯の体調不良
- 再発、転移の不安
- 甲状腺がん以外の身体的影響
- 世間的に大学を中退
- 希望をもって就職した会社を退職
- 恋愛、結婚、出産等、具体的に思い浮かべることができない
- 親が被害者としての社会的影響
- 社会からのバッシング

穏やかな生活自体の根底的破壊

人生を制約されながら、長い人生を歩む

人生の喜びを予め奪われた



将来設計に対する損害

- 手術でできた首の傷は一生消えないため傷が隠れる服を選んで着ています。傷が見える服だと必ず傷について聞かれたり、自殺未遂でもしたのかと心無い言葉を言われたりもしたからです。
- 二度目は全摘出かつリンパ腺まで摘出したので、術後は摘出した側の肩が上がりにくくなったり、首の感覚が鈍くなるなどの後遺症に近いものがあり、それがいつ治るのか不安でした。退院後も、薬を半永久的に飲まなくてはならないし、ずっと今後も定期的な受診をしなくてはならないと思うと、えもいわれぬ不安があります。

訴状／原告と家族からの提訴にあたってのコメントより



将来設計に対する損害

- 将来的に結婚をするときに、甲状腺がんであることを理由に拒絶されたり、差別されることがあるのではないかという不安がある。
- 将来結婚式でウェディングドレスもデコルテを出すデザインを選べない。
- がんに罹患していることが原因で住宅ローンを組めず、そのために家を購入したいと思っても出来ないのではないかということも心配している。

訴状より